

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大分工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科		—	1	13	14	7	
	電気電子工学科				7	8	7	
	情報工学科				8	9	7	
	都市・環境工学科				9	10	7	
	機械・環境システム工学専攻		—	8	2	10	7	
	電気電子情報工学専攻				2	10	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>【機械工学科】 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=48&department_id=12&year=2020&lang=ja</p> <p>【電気電子工学科】 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=48&department_id=13&year=2020&lang=ja</p> <p>【情報工学科】 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=48&department_id=14&year=2020&lang=ja</p> <p>【都市・環境工学科】 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=48&department_id=15&year=2020&lang=ja</p> <p>【機械・環境システム工学専攻】 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=48&department_id=23&year=2020&lang=ja</p> <p>【電気電子情報工学専攻】 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=48&department_id=24&year=2020&lang=ja</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大分工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学 理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大分工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【シラバス作成過程】</p> <p>事務担当者が次年度開講科目の登録を行い、各専門、教科代表者(教務部委員)が登録された科目の確認及びモデルコアカリキュラム(以下MCC)の到達目標との紐付け作業を行った上で、各科目担当者が決められた様式に基づいて、到達目標、教育方針、授業科目の概要、年間の授業計画、成績評価の方法・基準、MCC到達目標のレベル設定等を入力しWebシラバスとして公開している。</p> <p>【作成時期】</p> <p>高専機構本部によってWebシラバスの年度更新が行われたのち(11月頃)、事務担当者が科目登録を行った上で、全科目担当教員が入力を行う。これを教務主事室でチェックして、翌年2月上旬頃に、全ての科目が公開できる状態に作成する。学生への周知及び一般への公開は年度が明けた4月にWeb上で公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=48&lang=ja</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【本科】

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」(学生には学生便覧、一般には Web 上で公開している)に基づき、授業科目の学修成果の評価を厳正に行っている。

教員は、初回授業にて、シラバスに基づき当該科目の概要及び評価方法・評価基準についての説明を十分に行う。学業成績は定期試験成績、平素の試験成績、出席状況等を考慮し、シラバスに記載した評価方法に基づいて 100 点法による評点により評価し、100 点法による評価が困難な科目については、合格 (G) 又は不合格とする。80 点以上を A 評価、79 点～70 点を B 評価、69 点～60 点を C 評価、59 点以下を D 評価に読み替え、最終成績が 60 点 (C 評価) 以上でかつ、欠課時数が 1 単位 (講義科目の学修単位については 2 単位) につき 7 単位時間以内の場合に単位修得の認定を行う。

前期終了の授業科目については、前期終了後の教員会議で未履修判定を行い、学年末の教員会議 (判定会議) で、最終確認を行う。

学年末の進級判定会議 (全教員出席) において、上述の学則及び内規に沿って、各科目の履修判定、単位認定を行った上で、学年の課程修了と進級判定を行う。

また全授業科目について、評価の証拠となるエビデンス (課題、レポート、出欠状況、試験問題、全学生の答案、最終成績等) の保管も徹底して行っている。

【専攻科】

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」(学生には専攻科学生便覧、一般には Web 上で公開している)に基づき、授業科目の学修成果の評価を厳正に行っている。

教員は初回授業にて、シラバスに基づき当該科目の概要及び評価方法・評価基準についての説明を十分に行う。学業成績は、定期試験、追試験の成績及び平素の学習状況等を総合してシラバスに記載した評価方法に基づいて評価する。成績評価は、100 点法によって行い、次の評語で区別する。

(100 点～90 点 : AA、89 点～80 点 : A、79 点～70 点 : B、69 点～60 点 : C)

100 点法による評価が困難な科目については、合格 (G) 又は不合格とする。

成績評価に基づき、AA、A、B、C 又は合格 (G) に評価された科目については当該授業科目を修得したものとして専攻科運営委員会の議を経て単位を認定する。

本科同様、全授業科目について総合成績評価表、試験問題、全学生の答案等のエビデンスの保管について徹底して行っている。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【本科】

本科においては、定期試験毎の評点の平均点の高い順に学級順位をつけることによって客観的な指標を設定している。

ただし、第1学年から第4学年については必修科目（選択必修科目を含む）の評点を用い、第5学年については、必修科目及び履修登録した全ての選択科目の評点を用いる。

なお、卒業研究、校外実習、課題学習の評点は順位算定には含めない。

学生に対しては、評点に誤りがないか確認する機会を設け（成績確認日）適切な評価をつけている。

この順位の策定方法については、学生には学生便覧に、一般にはWeb上に公開している。

【専攻科】

専攻科においては、GPAによる客観的な指標を採用しており、計算式は下記のとおり。ただし、「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」及び「実務実習」は含まない。

(計算式) $GPA = \frac{\text{合格科目のGP}^{\ast} \text{の総和}}{\text{合格科目数}}$

※GP 評価点 (100点～90点=4、89点～80点=3、79点～70点=2
69点～60点=1、59点以下=0)

この成績評価の順位の策定方法については、学生には専攻科学生便覧に、一般にはWeb上に公開している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	専攻科： http://onct.oita-ct.ac.jp/senkou/2020_senkou_binran.pdf (PDF上：P.10、刊行物：P.7) 本科： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/gakuseibinran_kyomu.pdf (PDF上：P.2、刊行物：P.37) (刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

《卒業の認定方針の策定》

・卒業の認定に関する方針の具体的内容

本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、本科においては、以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」として、専攻科においては、以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(E3)」として、具体化している。

さらに、本科では、「準学士課程(本科)で養成すべき人材像★」に示すように人文社会系の素養と理工系基礎学力、それぞれの学科において、機械系、電気電子系、情報系又は都市・環境系の学力を身につけた人材の育成も目的としており、在学中に(A1)～(D2)の資質や能力を身に付けられるように、人文社会系科目、理工系基礎科目、それぞれの学科において、機械系、電気電子系、情報系又は都市・環境系科目を適切に配置し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

また、専攻科では、本科における5年間の一貫教育の基礎の上に、2年間のより高度な実践的、創造的教育を教授することで、本科の「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」を「(A1)～(E3)」に発展させている。さらに、各専攻においては、「専攻科課程で養成すべき人材像★」に示すように機械・環境系又は電気電子情報系の専門技術を身につけた人材の養成も目的としており、(E1)～(E3)に、機械・環境系又は電気電子情報系科目及び工学の相互関連を理解する科目を適切に配置し、在学中に(A1)～(E3)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

在学中に修得する資質や能力

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、本科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A1)～(D2)として掲げており、専攻科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A1)～(E3)として掲げている。

【本科】

(A1)	自ら考える力を身につける (1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること
(A2)	技術者としての倫理を身につける (1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること
(B1)	数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること
(B2)	情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
(C1)	表現する力、ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること
(C2)	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること

(D 1)	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること
(D 2)	協力して問題を解決する力を身につける (1) チームで問題に取り組む体験を得ること

【専攻科】

(A 1)	自ら考える力を身につける (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
(A 2)	技術者としての倫理を身につける (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
(B 1)	数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 数学、自然科学の知識を活用して、自然現象の本質を問う問題が解けること (3) 自主的、継続的に学習できること
(B 2)	情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること (2) 自主的、継続的に学習できること
(C 1)	表現する力、ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
(C 2)	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
(D 1)	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
(D 2)	協力して問題を解決する力を身につける (1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
(E 1)	専門工学の知識を獲得する (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること

(E 2)	工学の相互関連性を理解する (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
(E 3)	専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

★準学士課程（本科）で養成すべき人材像

- ① 5年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者
- ② 対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者

学科ごとの人材養成に関する目的は、次のとおり。

<機械工学科>

機械工学科は、機械工学を中心とした幅広い学問と豊富な実験実習により、先端技術を含んだ多分野に対応できる人材の養成を目的とする。

この目的を達成するために、①機械の動きを解析・制御する技術、②材料をうまく利用する技術、③加工や製作の技術、④熱やエネルギーを利用する技術、⑤水や空気の流れを利用する技術、を中心とした学問・技術を教授し、これらを統合して社会に役立つものを設計・製作できる能力を培う。

<電気電子工学科>

電気電子工学科は、電気工学、電子工学分野の素養を持ち、コンピュータや情報通信分野への柔軟な対応力を備えた電気・電子・情報通信に関わる広範な専門分野で活躍できる技術者の養成を目的とする。

この目的を達成するために、豊かな教養、科学する心、デザインする力、協調して実践する力を養い、電力、エレクトロニクス、情報通信、制御システム、コンピュータなどの専門分野の基礎知識と創造的な技術力を培う。

<情報工学科>

情報工学科は、高度な専門知識と技術をもち、IT化社会のさまざまな産業分野で活躍できる人間性豊かな情報工学技術者の養成を目的とする。

この目的を達成するために、数学、物理、英語、電気・電子などの基礎科目と、①コンピュータやネットワークのしくみを理解するための科目、②ソフトウェアを作るためのプログラミング演習などの科目、③コンピュータを工学に活かすためのデータ解析などの科目、を教授する。また、これらの技術を実践的に修得するための実験も行う。

<都市・環境工学科>

都市・環境工学科は、人口減少や少子高齢化にともなう社会構造の変化ならびに大規模地震や気候変動による災害リスクの高まりの中で、土木工学の知識を駆使して、人々の暮らしを守り、社会・経済活動を支える基盤をつくとともに、良質な生活空間の実現に貢献する技術者の養成を目的とする。

この目的を達成するために、①社会資本整備技術、②防災技術、③環境保全技術などについて幅広い知識を教授する。

★専攻科課程で養成すべき人材像

- ①高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材
- ②自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者

専攻ごとの人材養成に関する目的は次のとおり。

<機械・環境システム工学専攻>

機械・環境システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行っている。すなわち、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、発想力、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者の養成を目的とする。

<電気電子情報工学専攻>

電気電子情報工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、電気工学、電子工学、情報工学に関する様々な分野について、より高度で専門的な技術教育を行うことによって、高度情報社会に対応できる新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力や解析能力及び問題解決能力を備え、深い教養と広い視野を有する国際性豊かな創造的技術者の養成を目的とする。

《公表》

上記の卒業（修了）認定の方針及び各学科、各専攻の「養成すべき人材像」については、Web上に公開している。

《適切な実施》

【本科】

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」に基づき、全課程の修了の認定に必要な修得単位数は、上述した卒業認定の方針を基に高等専門学校設置基準に従って配置された科目から167単位以上（そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上）、さらに教育課程表に記載されている第4学年と第5学年の科目の修得単位数の合計が62単位以上であり、全ての必修科目を修得していること。

第5学年の課程を修了した者の卒業は、教員会議（卒業判定会議）の議を経て、校長が認定する。

これらの規則は、学生便覧によって学生に周知し、Web上に公開している。

【専攻科】

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」に基づき、専攻科に2年以上在学し、上述した専攻科修了認定の方針に則って配置された科目の62単位以上を修得し、全ての必修科目を修得

したと認められること及び「システムデザイン工学」プログラムの修了要件※を満たす必要がある。

- ※(1)教育プログラムの学習・教育目標で定める全ての到達目標を達成していること。この到達目標の達成度は、「学習・教育目標で定める到達目標の評価方法」に示す基準に基づいて評価される。
- (2)教育プログラムの認める単位を 124 単位以上修得していること。
- (3)教育プログラムの認める数学、自然科学及び科学技術に関する単位を 75 単位以上（修了要件 124 単位の 60%以上）修得していること。
- (4)情報技術・基礎工学科目群の①～⑤の各科目群からそれぞれ 1 科目以上、合計 6 科目以上修得していること。

上記の要件を満たした者について、専攻科運営委員会の議を経て、校長が専攻科の修了を認定する。

これらの規則は、専攻科学生便覧によって学生に周知し、Web 上に公開している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/gakusoku.pdf http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf 刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大分工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: インターネットによる公表 : http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/2_20191202_gaibuhyoka_hokokusyo.pdf 刊行物等で公表:自己点検・評価報告書 入手方法:大分高専総務課(097-552-6075)にお問い合わせください。
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 (本科) 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf)
(概要) 本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的とし、本科(準学士課程)で養成すべき人材像は、次のとおりとする。 ①5年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者 ②対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者 学科ごとの人材養成に関する目的は、次のとおりとする。 <機械工学科> 機械工学科は、機械工学を中心とした幅広い学問と豊富な実験実習により、先端技術を含んだ多分野に対応できる人材の養成を目的とする。 この目的を達成するために、①機械の動きを解析・制御する技術、②材料をうまく利用する技術、③加工や製作の技術、④熱やエネルギーを利用する技術、⑤水や空気の流れを利用する技術、を中心とした学問・技術を教授し、これらを統合して社会に役立つものを設計・製作できる能力を培う。 また、技術者として、将来に渡り身につけていくべき資質や能力を、以下の(A)～(E)として掲げている。 (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心 (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎力 (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる能力 (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究し、分析し、イメージする能力 (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf 刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧
(概要) ・卒業の認定に関する方針の具体的内容 本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、これを以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」として、具体化している。 さらに機械工学科では、「準学士課程(本科)で養成すべき人材像(上述)」に示すように人文社会系の素養と理工系基礎学力、機械系の学力を身につけた人材の育成も目的としており、人文社会系科目、理工系基礎科目、機械系科目を適切に配置し、在学

中に(A1)～(D2)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

在学中に修得する資質や能力

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、本科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A1)～(D2)として掲げている。

(A1)	<p>自ら考える力を身につける</p> <p>(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること</p> <p>(2) 論理的に自らの考えを構築することができること</p>
(A2)	<p>技術者としての倫理を身につける</p> <p>(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること</p> <p>(2) いたくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること</p>
(B1)	<p>数学、自然科学の力を身につける</p> <p>(1) 数学の基本的な問題が解けること</p> <p>(2) 自然科学の基本的な問題が解けること</p>
(B2)	<p>情報技術、専門工学の基礎を身につける</p> <p>(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること</p>
(C1)	<p>表現する力、ディスカッションする力を身につける</p> <p>(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること</p>
(C2)	<p>英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける</p> <p>(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること</p>
(D1)	<p>探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける</p> <p>(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること</p> <p>(2) 問題を深く掘り下げる努力ができること</p>
(D2)	<p>協力して問題を解決する力を身につける</p> <p>(1) チームで問題に取り組む体験を得ること</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

本科において、卒業の認定に関する方針で示す(A1)～(D2)の力を身につけるために科目を定め、開設している。(A1)(A2)の力は、主に一般科目のうちの文系科目で身につける。(B1)の力は、主に一般科目のうちの理系科目で身につける。(B2)の力は、専門科目のうち講義形式の科目で身につける。(C1)の力は、一般科目のうちの国語系科目と卒業研究で身につける。(C2)の力は、一般科目のうちの外国語系科目で身につける。(D1)(D2)の力は、専門科目のうちの実験系科目で身につける。(A1)～(C2)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(D1)(D2)の科目は、主に製作物やレポート等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。

なお、卒業認定を受けるには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目と選択科目単位数の合計が規定単位数以上となるように修得することが必要である。また、一般科目の修得単位数、専門科目の修得単位数についても、規定単位数以上の修得が必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

機械工学科で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、推薦選抜においては、調査書・筆記試験・面接により、学力選抜においては、調査書・筆記試験により確認し、受け入れる。

- ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人
- ・ 総合的に学力の高い人
- ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人
- ・ 数学基礎力のある人

また、機械工学科への4年次への編入学で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、編入学選抜において、調査書・筆記試験・面接により確認し、受け入れる。

- ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人
- ・ 総合的に学力の高い人
- ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人
- ・ 数学基礎力のある人
- ・ 専門基礎力のある人

学部等名

（本科）電気電子工学科

教育研究上の目的（公表方法：

http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf）

（概要）

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的とし、本科（準学士課程）で養成すべき人材像は、次のとおりとする。

- ① 5年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者
- ② 対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者

学科ごとの人材養成に関する目的は次のとおりとする。

<電気電子工学科>

電気電子工学科は、電気工学、電子工学分野の素養を持ち、コンピュータや情報通信分野への柔軟な対応力を備えた電気・電子・情報通信に関わる広範な専門分野で活躍できる技術者の養成を目的とする。

この目的を達成するために、豊かな教養、科学する心、デザインする力、協調して実践する力を養い、電力、エレクトロニクス、情報通信、制御システム、コンピュータなどの専門分野の基礎知識と創造的な技術力を培う。

また、技術者として、将来に渡り身につけていくべき資質や能力を、以下の(A)～

- (E)として掲げている。
- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、い
つくしみの心
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技
術、専門工学の基礎力
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の
理解とコミュニケーションできる能力
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究し、分析し、
イメージする能力
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを
活用する力

卒業の認定に関する方針（公表方法：
http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>
 刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧）

（概要）

- ・卒業の認定に関する方針の具体的内容

本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、これを以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」として、具体化している。

さらに電気電子工学科では、「準学士課程（本科）で養成すべき人材像（上述）」に示すように人文社会系の素養と理工系基礎学力、電気電子系の学力を身につけた人材の育成も目的としており、人文社会系科目、理工系基礎科目、電気電子系科目を適切に配置し、在学中に(A1)～(D2)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

在学中に修得する資質や能力

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、本科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A1)～(D2)として掲げている。

(A1)	自ら考える力を身につける (1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること
(A2)	技術者としての倫理を身につける (1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること
(B1)	数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること
(B2)	情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
(C1)	表現する力、ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること

(C 2)	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること
(D 1)	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること
(D 2)	協力して問題を解決する力を身につける (1) チームで問題に取り組む体験を得ること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

本科において、卒業の認定に関する方針で示す(A 1)～(D 2)の力を身につけるために科目を定め、開設している。(A 1)(A 2)の力は、主に一般科目のうちの文系科目で身につける。(B 1)の力は、主に一般科目のうちの理系科目で身につける。(B 2)の力は、専門科目のうち講義形式の科目で身につける。(C 1)の力は、一般科目のうちの国語系科目と卒業研究で身につける。(C 2)の力は、一般科目のうちの外国語系科目で身につける。(D 1)(D 2)の力は、専門科目のうちの実験系科目で身につける。(A 1)～(C 2)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(D 1)(D 2)の科目は、主に製作物やレポート等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。

なお、卒業認定を受けるには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目と選択科目単位数の合計が規定単位数以上となるように修得することが必要である。また、一般科目の修得単位数、専門科目の修得単位数についても、規定単位数以上の修得が必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

電気電子工学科で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、推薦選抜においては、調査書・筆記試験・面接により、学力選抜においては、調査書・筆記試験により確認し、受け入れる。

- ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人
- ・ 総合的に学力の高い人
- ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人
- ・ 数学基礎力のある人

また、電気電子工学科への4年次への編入学で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、編入学選抜において、調査書・筆記試験・面接により確認し、受け入れる。

- ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人
- ・ 総合的に学力の高い人
- ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人
- ・ 数学基礎力のある人
- ・ 専門基礎力のある人

<p>学部等名 (本科) 情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的とし、本科(準学士課程)で養成すべき人材像は、次のとおりとする。</p> <p>①5年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者</p> <p>②対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者</p> <p>学科ごとの人材養成に関する目的は次のとおりとする。</p> <p><情報工学科></p> <p>情報工学科は、高度な専門知識と技術をもち、IT化社会のさまざまな産業分野で活躍できる人間性豊かな情報工学技術者の養成を目的とする。</p> <p>この目的を達成するために、数学、物理、英語、電気・電子などの基礎科目と、①コンピュータやネットワークのしくみを理解するための科目、②ソフトウェアを作るためのプログラミング演習などの科目、③コンピュータを工学に活かすためのデータ解析などの科目、を教授する。また、これらの技術を実践的に修得するための実験も行う。</p> <p>また、技術者として、将来に渡り身につけていくべき資質や能力を、以下の(A)～(E)として掲げている。</p> <p>(A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心</p> <p>(B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎力</p> <p>(C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる能力</p> <p>(D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究し、分析し、イメージする能力</p> <p>(E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf 刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧)</p>
<p>(概要)</p> <p>・卒業の認定に関する方針の具体的内容</p> <p>本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、これを以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」として、具体化している。</p> <p>さらに、情報工学科では、「準学士課程(本科)で養成すべき人材像(上述)」に示すように人文社会系の素養と理工系基礎学力、情報系の学力を身につけた人材の育成も目的としており、人文社会系科目、理工系基礎科目、情報系科目を適切に配置し、在学中に(A1)～(D2)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>在学中に修得する資質や能力</p>

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、本科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A 1)～(D 2)として掲げている。

(A 1)	自ら考える力を身につける (1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること
(A 2)	技術者としての倫理を身につける (1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること
(B 1)	数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること
(B 2)	情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
(C 1)	表現する力、ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること
(C 2)	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること
(D 1)	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること
(D 2)	協力して問題を解決する力を身につける (1) チームで問題に取り組む体験を得ること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

本科において、卒業の認定に関する方針で示す(A 1)～(D 2)の力を身につけるために科目を定め、開設している。(A 1) (A 2)の力は、主に一般科目のうちの文系科目で身につける。(B 1)の力は、主に一般科目のうちの理系科目で身につけ、(B 2)の力は、専門科目のうち講義形式の科目で身につける。(C 1)の力は、一般科目のうちの国語系科目と卒業研究で身につけ、(C 2)の力は、一般科目のうちの外国語系科目で身につける。(D 1) (D 2)の力は、専門科目のうちの実験系科目で身につける。(A 1)～(C 2)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(D 1) (D 2)の科目は、主に製作物やレポート等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。

なお、卒業認定を受けるには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目と選択科目単位数の合計が規定単位数以上となるように修得することが必要である。また、一般科目の修得単位数、専門科目の修得単位数についても、規定単位数以上の修得が必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf）</p>
<p>（概要） 情報工学科で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、推薦選抜においては、調査書・筆記試験・面接により、学力選抜においては、調査書・筆記試験により確認し、受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人 ・ 総合的に学力の高い人 ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人 ・ 数学基礎力のある人 <p>また、情報工学科への4年次への編入学で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、編入学者選抜において、調査書・筆記試験・面接により確認し、受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人 ・ 総合的に学力の高い人 ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人 ・ 数学基礎力のある人 ・ 専門基礎力のある人

<p>学部等名 （本 科）都市・環境工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf）</p>
<p>（概要） 本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的とし、本科（準学士課程）で養成すべき人材像は、次のとおりとする。</p> <p>① 5年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者</p> <p>② 対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者</p> <p>学科ごとの人材養成に関する目的は次のとおりとする。</p> <p><都市・環境工学科> 都市・環境工学科は、人口減少や少子高齢化にともなう社会構造の変化ならびに大規模地震や気候変動による災害リスクの高まりの中で、土木工学の知識を駆使して、人々の暮らしを守り、社会・経済活動を支える基盤をつくとともに、良質な生活空間の実現に貢献する技術者の養成を目的とする。 この目的を達成するために、①社会資本整備技術、②防災技術、③環境保全技術などについて幅広い知識を教授する。</p> <p>また、技術者として、将来に渡り身につけていくべき資質や能力を、以下の(A)～(E)として掲げている。</p> <p>(A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いづくしみの心</p> <p>(B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎力</p> <p>(C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の</p>

理解とコミュニケーションできる能力
 (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究し、分析し、イメージする能力
 (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力

卒業の認定に関する方針（公表方法：
http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>
 刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧）

(概要)
 ・卒業の認定に関する方針の具体的内容
 本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、これを以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」として、具体化している。
 さらに、都市・環境工学科では、「準学士課程(本科)で養成すべき人材像(上述)」に示すように人文社会系の素養と理工系基礎学力、都市・環境系の学力を身につけた人材の育成も目的としており、人文社会系科目、理工系基礎科目、都市・環境系科目を適切に配置し、在学中に(A1)～(D2)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

在学中に修得する資質や能力

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、本科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A1)～(D2)として掲げている。

(A1)	自ら考える力を身につける (1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること
(A2)	技術者としての倫理を身につける (1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること
(B1)	数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること
(B2)	情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
(C1)	表現する力、ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること
(C2)	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること

(D 1)	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること
(D 2)	協力して問題を解決する力を身につける (1) チームで問題に取り組む体験を得ること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

本科において、卒業の認定に関する方針で示す(A 1)～(D 2)の力を身につけるために科目を定め、開設している。(A 1)(A 2)の力は、主に一般科目のうちの文系科目で身につける。(B 1)の力は、主に一般科目のうちの理系科目で身につけ、(B 2)の力は、専門科目のうち講義形式の科目で身につける。(C 1)の力は、一般科目のうちの国語系科目と卒業研究で身につけ、(C 2)の力は、一般科目のうちの外国語系科目で身につける。(D 1)(D 2)の力は、専門科目のうちの実験系科目で身につける。(A 1)～(C 2)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(D 1)(D 2)の科目は、主に製作物やレポート等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。

なお、卒業認定を受けるには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目と選択科目単位数の合計が規定単位数以上となるように修得することが必要である。また、一般科目の修得単位数、専門科目の修得単位数についても、規定単位数以上の修得が必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

都市・環境工学科で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、推薦選抜においては、調査書・筆記試験・面接により、学力選抜においては、調査書・筆記試験により確認し、受け入れる。

- ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人
- ・ 総合的に学力の高い人
- ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人
- ・ 数学基礎力のある人

また、都市・環境工学科への4年次への編入学で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、編入学選抜において、調査書・筆記試験・面接により確認し、受け入れる。

- ・ 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある人
- ・ 総合的に学力の高い人
- ・ 実験や「ものづくり」に興味のある人
- ・ 数学基礎力のある人
- ・ 専門基礎力のある人

学部等名

（専攻科）機械・環境システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：

http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf）

(概要)

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的とし、専攻科で養成すべき人材像は、次のとおりとする。

- ①高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材
- ②自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者

専攻ごとの人材養成に関する目的は次のとおりとする。

<機械・環境システム工学専攻>

機械・環境システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行っている。すなわち、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、発想力、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者の養成を目的とする。

また、技術者として、将来に渡り身につけていくべき資質や能力を、以下の(A)～(E)として掲げている。

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いづくしみの心
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎力
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる能力
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究し、分析し、イメージする能力
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力

卒業の認定に関する方針（公表方法）

http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf

<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>

刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧

(概要)

- ・修了の認定に関する方針の具体的内容

本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、これを以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(E3)」として具体化している。

専攻科では、本科における5年間の一貫教育の基礎の上に、2年間のより高度な実践的、創造的教育を教授することで、本科の「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」を「(A1)～(E3)」に発展させている。さらに、機械・環境システム工学専攻においては、「専攻科課程で養成すべき人材像(上述)」に示すように機械・環境系の専門技術を身につけた人材の養成も目的としており、(E1)～(E3)に、機械・環境系科目及び工学の相互関連を理解する科目を適切に配置し、在学中に(A1)～(E3)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

在学中に修得する資質や能力

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、専攻科在学中に修得する資質や能

力を、以下の(A 1)~(E 3)として掲げている。

(A 1)	<p>自ら考える力を身につける</p> <p>(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること</p> <p>(2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること</p> <p>(3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること</p>
(A 2)	<p>技術者としての倫理を身につける</p> <p>(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること</p> <p>(2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること</p>
(B 1)	<p>数学、自然科学の力を身につける</p> <p>(1) 数学の基本的な問題が解けること</p> <p>(2) 数学、自然科学の知識を活用して、自然現象の本質を問う問題が解けること</p> <p>(3) 自主的、継続的に学習できること</p>
(B 2)	<p>情報技術、専門工学の基礎を身につける</p> <p>(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること</p> <p>(2) 自主的、継続的に学習できること</p>
(C 1)	<p>表現する力、ディスカッションする力を身につける</p> <p>(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること</p>
(C 2)	<p>英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける</p> <p>(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること</p>
(D 1)	<p>探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける</p> <p>(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること</p> <p>(2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること</p> <p>(3) 問題を深く掘り下げる努力ができること</p>
(D 2)	<p>協力して問題を解決する力を身につける</p> <p>(1) 問題をチームで解決する体験を得ること</p> <p>(2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること</p>
(E 1)	<p>専門工学の知識を獲得する</p> <p>(1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること</p>
(E 2)	<p>工学の相互関連性を理解する</p> <p>(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること</p> <p>(2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること</p>

(E 3)	<p>専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける</p> <p>(1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること</p>
-------	---

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

専攻科においては、修了の認定に関する方針で示す(A 1)～(E 3)の力を身につけるために、各専攻で定めた科目を開設している。(A 1)(A 2)の力は、主に一般科目のうちの文系科目で身につける。(B 1)の力は、主に一般科目のうちの理系科目で身につけ、(B 2)の力は、専門科目のうち講義形式の科目で身につける。(C 1)の力は、一般科目のうちの国語系科目と卒業研究で身につけ、(C 2)の力は、一般科目のうちの外国語系科目で身につける。(D 1)(D 2)の力は、専門科目のうちの実験系科目で身につける。(A 1)～(C 2)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(D 1)(D 2)の科目は、主に製作物やレポート等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。(E 1)の力は、講義形式の科目で身につける。(E 2)の力は、実験系科目と講義形式の共通専門科目で身につける。(E 3)の力は、特別研究で身につける。(E 1)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(E 2)(E 3)の科目は、主に定期試験や課題の評価、製作物やレポート及び特別研究論文や審査発表会等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。

なお、修了認定を受けるには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目と選択科目単位数の合計が規定単位数以上となるように修得することが必要である。また、一般科目の修得単位数、専門科目の修得単位数についても、規定単位数以上の修得が必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>）

（概要）

- ・機械・環境システム工学専攻で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、推薦選抜においては、調査書・面接・口頭試問により、学力選抜においては、調査書・筆記試験・面接により確認し、受け入れる。
- ・本校の学習・教育目標を達成する能力のある人
- ・本校の学習・教育目標を達成するために必要な学習履歴があり、一般及び専門の基礎学力を有する人

学部等名
 （専攻科）電気電子情報工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：
http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf）

（概要）

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的とし、専攻科で養成すべき人材像は、次のとおりとする。

- ①高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材
- ②自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的

技術者

専攻ごとの人材養成に関する目的は次のとおりとする。

<電気電子情報工学専攻>

電気電子情報工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、電気工学、電子工学、情報工学に関する様々な分野について、より高度で専門的な技術教育を行うことによって、高度情報社会に対応できる新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力や解析能力及び問題解決能力を備え、深い教養と広い視野を有する国際性豊かな創造的技術者の養成を目的とする。

また、技術者として、将来に渡り身につけていくべき資質や能力を、以下の(A)～(E)として掲げている。

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いづくしみの心
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎力
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる能力
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究し、分析し、イメージする能力
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力

卒業の認定に関する方針（公表方法：

http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/kyoikumokuteki_kisoku.pdf

<http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf>

刊行物：学生便覧、専攻科学生便覧)

(概要)

・修了の認定に関する方針の具体的内容

本校では、人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を養成することを学校の教育目的に掲げ、これを以下に示す「在学中に修得する資質や能力(A1)～(E3)」として具体化している。

専攻科では、本科における5年間の一貫教育の基礎の上に、2年間のより高度な実践的、創造的教育を教授することで、本科の「在学中に修得する資質や能力(A1)～(D2)」を「(A1)～(E3)」に発展させている。さらに、電気電子情報工学専攻においては、「専攻科課程で養成すべき人材像（上述）」に示すように電気電子情報系の専門技術を身につけた人材の養成も目的としており、(E1)～(E3)に、電気電子情報系科目及び工学の相互関連を理解する科目を適切に配置し、在学中に(A1)～(E3)の資質や能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

在学中に修得する資質や能力

「技術者に必要な資質や能力(A)～(E)」に基づき、専攻科在学中に修得する資質や能力を、以下の(A1)～(E3)として掲げている。

(A1)	自ら考える力を身につける (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
------	---

(A 2)	技術者としての倫理を身につける (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
(B 1)	数学，自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 数学，自然科学の知識を活用して，自然現象の本質を問う問題が解けること (3) 自主的，継続的に学習できること
(B 2)	情報技術，専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること (2) 自主的，継続的に学習できること
(C 1)	表現する力，ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき，そのテーマについて議論できること
(C 2)	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき，英語による簡単なコミュニケーションができること
(D 1)	探究心，分析力，イメージ力，デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して，計測測定を行い，問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして，その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
(D 2)	協力して問題を解決する力を身につける (1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し，自らの分担を見定めて行動できること
(E 1)	専門工学の知識を獲得する (1) 自らの専門性に即して，一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること
(E 2)	工学の相互関連性を理解する (1) 技術が，ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
(E 3)	専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し，解決する力を身につける (1) 自らの専門分野において，問題の所在と性質を見極め，その対処法あるいは解決法をデザインし，これを実行することができること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf ）	

<p>(概要)</p> <p>(概要)</p> <p>専攻科においては、修了の認定に関する方針で示す(A 1)～(E 3)の力を身につけるために、各専攻で定めた科目を開設している。(A 1)(A 2)の力は、主に一般科目のうちの文系科目で身につける。(B 1)の力は、主に一般科目のうちの理系科目で身につけ、(B 2)の力は、専門科目のうち講義形式の科目で身につける。(C 1)の力は、一般科目のうちの国語系科目と卒業研究で身につけ、(C 2)の力は、一般科目のうちの外国語系科目で身につける。(D 1)(D 2)の力は、専門科目のうちの実験系科目で身につける。(A 1)～(C 2)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(D 1)(D 2)の科目は、主に製作物やレポート等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。(E 1)の力は、講義形式の科目で身につける。(E 2)の力は、実験系科目と講義形式の共通専門科目で身につける。(E 3)の力は、特別研究で身につける。(E 1)の科目は、主に定期試験や課題の評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定され、(E 2)(E 3)の科目は、主に定期試験や課題の評価、製作物やレポート及び特別研究論文や審査発表会等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。</p> <p>なお、修了認定を受けるには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目と選択科目単位数の合計が規定単位数以上となるように修得することが必要である。また、一般科目の修得単位数、専門科目の修得単位数についても、規定単位数以上の修得が必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.oita-ct.ac.jp/wpct/data/3-hoshin.pdf）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子情報工学専攻で求める入学者は、次のとおりとする。これらの意欲、学力及び適性を有する者を、推薦選抜においては、調査書・面接・口頭試問により、学力選抜においては、調査書・筆記試験・面接により確認し、受け入れる。 ・本校の学習・教育目標を達成する能力のある人 ・本校の学習・教育目標を達成するために必要な学習履歴があり、一般及び専門の基礎学力を有する人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：http://www.oita-ct.ac.jp/soshiki/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
一般科	—	4人	10人	4人	1人	0人	19人
機械工学科	—	4人	4人	1人	1人	0人	10人
電気電子工学科	—	4人	4人	0人	1人	0人	9人
情報工学科	—	4人	2人	2人	2人	0人	10人
都市・環境工学科	—	3人	5人	0人	0人	0人	8人
地域共創テクノセンター	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
—			—				35人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)			公表方法： https://www.oita-ct.ac.jp/kennkyu/				
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
毎年度当初にFD委員会を開催し、当該年度のFD活動方針を定め、例年3～4回程度のFD研修会を実施している。また、学生による授業アンケート及び教員による授業点検に基づく教員への適切な指導や教員の自己点検評価及び教育功労者表彰の推薦等を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	41人	102.5%	200人	204人	102.0%	若干名	1人
電気電子工学科	40人	40人	100.0%	200人	203人	101.5%		0人
情報工学科	40人	40人	100.0%	200人	200人	100.0%		1人
都市・環境工学科	40人	40人	100.0%	200人	198人	99.0%		0人
合計	160人	161人	100.6%	800人	805人	100.6%	若干名	2人
機械・環境システム工学専攻	8人	15人	187.5%	16人	30人	187.5%	—	—
電気電子情報工学専攻	8人	12人	150.0%	16人	19人	118.8%	—	—
合計	16人	27人	168.8%	32人	49人	153.1%	—	—
(備考) 編入学者は2名とも外国人留学生。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数	その他
—	—	—	—	—

			(自営業を含む。)	
機械工学科	41人 (100%)	10人 (24.4%)	30人 (73.2%)	1人 (2.4%)
電気電子工学科	31人 (100%)	9人 (29.0%)	22人 (71.0%)	0人 (0%)
情報工学科	36人 (100%)	22人 (61.1%)	14人 (38.9%)	0人 (0%)
都市・環境工学科	39人 (100%)	11人 (28.2%)	28人 (71.8%)	0人 (0%)
機械・環境システム工学専攻	16人 (100%)	5人 (31.25%)	11人 (68.75%)	0人 (0%)
電気電子情報工学専攻	12人 (100%)	6人 (50.0%)	6人 (50.0%)	0人 (0%)
合計	175人 (100%)	63人 (36.0%)	111人 (63.4%)	1人 (0.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	40人 (100%)	39人 (97.5%)	0人 (0%)	1人 (2.5%)	0人 (%)
電気電子工学科	40人 (100%)	30人 (75.0%)	6人 (15.0%)	4人 (10.0%)	0人 (%)
情報工学科	40人 (100%)	34人 (85.0%)	2人 (5.0%)	4人 (10.0%)	0人 (%)
都市・環境工学科	40人 (100%)	37人 (92.5%)	2人 (5.0%)	1人 (2.5%)	0人 (%)
合計	160人 (100%)	140人 (87.5%)	10人 (6.3%)	10人 (6.3%)	0人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【シラバス作成過程】 事務担当者が次年度開講科目の登録を行い、各専門、教科代表者（教務部委員）が登録された科目の確認及びモデルコアカリキュラム（以下 MCC）の到達目標との紐付け作業を行った上で、各科目担当者が決められた様式に基づいて、到達目標、教育方針、授業科目の概要、年間の授業計画、成績評価の方法・基準、MCC 到達目標のレベル設定等を入力し Web シラバスとして公開している。</p> <p>【作成時期】 高専機構本部によって Web シラバスの年度更新が行われたのち（11 月頃）、事務担当者が科目登録を行った上で、全科目担当教員が入力を行う。これを教務主事室でチェックして、翌年 2 月上旬頃に、全ての科目が公開できる状態に作成する。学生への周知及び一般への公開は年度が明けた 4 月に Web 上で公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【本科】 ≪学修の成果に係る評価≫ 「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」（学生には学生便覧、一般には Web 上で公開している）に基づき、授業科目の学修成果の評価を厳正に行っている。 教員は、初回授業にて、シラバスに基づき当該科目の概要及び評価方法・評価基準についての説明を十分に行う。学業成績は定期試験成績、平素の試験成績、出席状況等を考慮し、シラバスに記載した評価方法に基づいて 100 点法による評点により評価し、100 点法による評価が困難な科目については、合格 (G) 又は不合格とする。80 点以上を A 評価、79 点～70 点を B 評価、69 点～60 点を C 評価、59 点以下を D 評価に読み替え、最終成績が 60 点 (C 評価) 以上でかつ、欠課時数が 1 単位（講義科目の学修単位については 2 単位）につき 7 単位時間以内の場合に単位修得の認定を行う。 前期終了の授業科目については、前期終了後の教員会議で未履修判定を行い、学年末の</p>
--

教員会議（判定会議）で、最終確認を行う。

学年末の進級判定会議（全教員出席）において、学則及び内規に沿って、各科目の履修判定、単位認定を行った上で、学年の課程修了と進級判定を行う。

また全授業科目について、評価の証拠となるエビデンス（課題、レポート、出欠状況、試験問題、全学生の答案、最終成績等）の保管も徹底して行っている。

《卒業の認定》

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」に基づき、全課程の修了の認定に必要な修得単位数は、卒業認定の方針を基に高等専門学校設置基準に従って配置された科目から167単位以上（そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上）、さらに教育課程表に記載されている第4学年と第5学年の科目の修得単位数の合計が62単位以上であり、全ての必修科目を取得していること。

第5学年の課程を修了した者の卒業は、教員会議（卒業判定会議）の議を経て、校長が認定する。

これらの規則は、学生便覧によって学生に周知し、Web上に公開している。

【専攻科】

《学修の成果に係る評価》

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」（学生には専攻科学生便覧、一般にはWeb上で公開している）に基づき、授業科目の学修成果の評価を厳正に行っている。

教員は初回授業にて、シラバスに基づき当該科目の概要及び評価方法・評価基準についての説明を十分に行う。学業成績は、定期試験、追試験の成績及び平素の学習状況等を総合してシラバスに記載した評価方法に基づいて評価する。成績評価は、100点法によって行い、次の評語で区別する。

（100点～90点：AA、89点～80点：A、79点～70点：B、69点～60点：C）
100点法による評価が困難な科目については、合格（G）又は不合格とする。

成績評価に基づき、AA、A、B、C又は合格（G）に評価された科目については当該授業科目を修得したものと専攻科運営委員会の議を経て単位を認定する。

本科同様、全授業科目について総合成績評価表、試験問題、全学生の答案等のエビデンスの保管について徹底して行っている。

《修了の認定》

「大分工業高等専門学校学則」及び「大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」に基づき、専攻科に2年以上在学し、専攻科修了認定の方針に則って配置された科目の62単位以上を修得し、全ての必修科目を修得したと認められること及び「システムデザイン工学」プログラムの修了要件※を満たす必要がある。

- ※(1)教育プログラムの学習・教育目標で定める全ての到達目標を達成していること。
この到達目標の達成度は、「学習・教育目標で定める到達目標の評価方法」に示す基準に基づいて評価される。
- (2)教育プログラムの認める単位を124単位以上修得していること。
- (3)教育プログラムの認める数学、自然科学及び科学技術に関する単位を75単位以上（修了要件124単位の60%以上）修得していること。
- (4)情報技術・基礎工学科目群の①～⑤の各科目群からそれぞれ1科目以上、合計6科目以上修得していること。

上記の要件を満たした者について、専攻科運営委員会の議を経て、校長が専攻科の修了を認定する。
これらの規則は、専攻科学生便覧によって学生に周知し、Web上に公開している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	無	単位
	電気電子工学科	167 単位	無	
	情報工学科	167 単位	無	単位
	都市・環境工学科	167 単位	無	
	機械・環境システム工学専攻	62 単位	有	単位
	電気電子工学専攻	62 単位	有	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.oita-ct.ac.jp/yoran/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600円	84,600円	51,200円～ 52,400円	後援会費：13,000円 (スポーツ 振興センター共済掛金:1,550円 含む) 後援会入会金：10,000円 学生会費：8,500円 学生会費入会金：1,000円 学生会新生オリエンテーショ ン費：3,300円 体育文化活動援助積立金：7,000 円 寄宿料：8,400円～9,600円 (寮生のみ)
	電気電子 工学科				
	情報工学 科				
	都市・環 境工学科				
	機械・環 境システ ム工学専 攻	234,600円	84,600円	21,400円～ 22,600円	後援会費：13,000円 (スポーツ 振興センター共済掛金:1,550円 含む) 寄宿料：8,400円～9,600円 (寮生のみ)
	電気電子 情報工学 専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本科においては担任制度、専攻科においては主任、副主任制度を設け、専門学科や主事室のバックアップのもとに、きめ細かい修学支援を行っている。 また、保健室内に「学生相談室」を設置して学生の様々な相談に応じており、パンフレットにより学生・保護者へ周知している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 例年11月に4年生を対象とした進路説明会を開催し、次年度の就職・進学活動を円滑に開始できるよう指導を行うとともに、5年生、専攻科2年生に対しては、求職企業情報や大学・大学院進学情報を随時提供し、学生の適性と希望に合った適切な進路指導を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 非常勤のカウンセラー(臨床心理士)を配置(3名、週4日)し、学生に対するカウンセリングを行うとともに、ソーシャルワーカー1名(月3回各4時間)並びに常勤看護師の外、非常勤看護師(1日6時間)を雇用し、学生個々の問題に対応できるようにしている。 このほか、学生のメンタル面のケアや自殺予防対策として、より専門的な見地からの支援として精神科医師も非常勤として雇用し、臨床心理士と連携しながら個別の学生相談に当たっている。加えて低学年向けの特活の授業においても、心の問題の視点で講演を行っている。 また、「大分工業高等専門学校における発達障害者への教育上の配慮に関する申合せ」を制定しており、発達障害等の診断書が提出された場合は、申合せに基づき特別支援チームを編成して対応している。その外にも、対応が必要と思われる学生については、学科を中心としてチームを組んで学生に応じて個別に対応できる体制を整え、取り組みを行っている。 さらに、学生の心と体の健康についてのさらなる充実を図るため、心の不調を訴える学生についての相談、必要であれば医療への連携を図るため、平成30年度から連携病院として精

神科病院に対応を依頼している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.oita-ct.ac.jp/info_kisoku172/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。